



空に浮かぶ雲もすっかり高くなり、季節は秋となりました。
暑かった夏を思い出して、子どもたちも季節の変わりを感じている事でしょう。
楽しい遠足の時期ですが、年少組と年中組は既に行って来ました。
つぼみさんは、毎年親子で行くのですが、コロナが心配で中止です。年長組は今年も石屋製菓へ行ってお菓子作りでワクワクドキドキして来ます。

■運動会と言う行事は、子どもたちの育ちに大きな力になります。

■子どもたちの夢が広がるハロウィンのパーティを10月予定しております。

年長児たちは3年と2年と前から取り組んで来ます。からだの面では勿論ですが、ひとりひとは心の面でもひとりひとりを積み上げて来て、本番当日「やったあ!!」という達成感と満足感を味わいます。

それが自信となり、次の意欲に結びつきます。

決して豪華さを競うものではありません。

衣装はお家からで、そのままいつもの園生活を過ごします。

バスの中と幼稚園の中も夢が広がって楽しさがいっぱいになります。



(心の育ちシリーズ) お父さんとお母さんになってくれてありがとう

ある小学校でお話をした時、3年生の女の子が私に言いました。「私の両親は『生んでやったんだから感謝しなさい』と言ってます」と。「でも、私、頼んだ覚えはないです」と言いました。

私はその子にこんな話をしました。

男の人と女の人が居て、Aくんが生まれました。すると男の人には「Aくんのお父さん」、女の人には「Aくんのお母さん」と言う名前が付きます。Aくんが生まれない限りならなかったお父さんとお母さんです。

「生んでやった」と上から言われても、あなたにはお父さん、お母さんになってくれた人がいるのです。

だからあなたの誕生日は、あなたのお父さんが「お父さんになれた誕生日」でもあるし、あなたのお母さんが「お母さんになれた誕生日」でもあるのです。おじいちゃん、おばあちゃんもみんなそうです。「だから、Aくんの誕生日に三世代の誕生日をやって、命がつながっていると分かるよ」と。

後日、その女の子から手紙が届きました。「こんど自分の誕生日にお父さんとお母さんに『お父さんになってくれてありがとう。お母さんになってくれてありがとう』と言います」とありました。

きつい言葉で言われたら、きつい言葉で返すしかありませんが、でもまなざしを変えたら「だから私が生まれた、うれしいな」に変わります。

金子みず記念館 館長 矢崎節夫 談